
『入門複素関数』第1版・第1刷の正誤表 (ver.20210109)

このノートは川平友規著『入門複素関数』（裳華房，2019年2月刊，第1版・第1刷）の正誤表・コメントをまとめたものです*1。

重要な訂正，わかりづらい部分の訂正に分かれています（第2刷以降，電子版では修正済みです）。変更部分は青で強調しました。

◎ 重要な訂正

- 127 ページ，下から2行目，公式 4.10 の証明の途中。

誤： $\eta(r) \rightarrow 0 \ (r \rightarrow \infty)$

正： $\eta(r) \rightarrow 0 \ (r \rightarrow 0)$

◎ わかりづらい部分の修正

- 76 ページ，4～7行目。

修正前：…と仮定する。積分の定義（あるいは定理 3.1）より，分割点の間隔を十分に小さくすることで，そのリーマン和 S は I にいくらでも近い値となる。とくに， $M \ell(C) < |S| < |I|$ となるようにできるが，これは先に得た不等式 $|S| \leq M \ell(C)$ と矛盾する。よって $|I| \leq M \ell(C)$ が成り立つ。

修正後：…と仮定する。このとき，任意のリーマン和 S に対し $|S| \leq M \ell(C) < |I|$ となるが，分割点の間隔を十分に小さくすれば S の値は I にいくらでも近くなる（積分の定義，あるいは定理 3.1）ので，これは矛盾である。よって $|I| \leq M \ell(C)$ が成り立つ。

コメント：説明をわかりやすく変更。

*1 謝辞。以下の方から誤植等のご指摘をいただきました。ありがとうございました：金城絵利那氏。

- 127 ページ, 公式 4.10 の証明の 5 行目

修正前: …矛盾. よって, ある穴あき円板 D 上で…

修正後: …矛盾. よって, ある α 中心の穴あき円板 D 上で…

コメント: 言葉の補足.

- 183 ページ, 9 行目. 定理 B.5 の主張.

修正前: …, 自然数全体の集合の…

修正後: …, 0 以上の整数全体の集合の…

コメント: 定理の主張は論理的に正しいのですが, 並べ替えた級数から z_0 が抜けてしまうのは不自然なので修正します. そのあとの添字の列 n_1, n_2, \dots も本来は n_0, n_1, \dots としたほうが良いのですが, その場合修正が定理の証明にまで及ぶのでやめておきます (第 2 刷ではそのように修正しました).

- 189 ページ, 5 行目, 定理 3.1, 公式 3.4 の証明.

修正前: 例 4 でみたように, …

修正後: 例 5 でみたように, …

コメント: より適切な例を指定 (例 5 は例 4 の特別な場合になっていて, よりマッチしている).